本教室の学びの 3 つの柱
――論理的思考力・英書多読・討論――

〈速読・要約・創造〉の能力

いま世界は、IT（情報通信）と AI（人工知能）の技術革新と普及にリードされ、英語を共通語として緊密につながりあい、大きな変化をとげつつあります。その中で、これからの社会・入試では、どの分野に進むにせよ、英語をつかって次の 3 つの能力――**〈速読・要約・創造〉**の力――を身につけることが求められるようになっています。

- ✦ 大量の情報を速く、正確に読みとく **速読**
- ✦ 未解決の課題の問題の本質を見抜いたり、対立の中心点を見つける **要約**
- ✦ 他の取り組みを参考にしながら理論を軸に解決策を組み立てたり、新たに問いを立てる **創造**

しかし、みなさんは学校で〈速読・要約・創造〉の方法やスキル（技術）を教わったことがあるでしょうか？　おそらく、ほとんどの人がないと思います。〈速読・要約・創造〉といった作業は、日本の言語文化および社会の中では、ほとんど発達してこなかったものだからです。

もともと〈速読・要約・創造〉は、論理的な考え方・思考法を土台にして発達してきた能力やスキルです。その論理的な思考法とは、英語などのヨーロッパ言語の文章・会話にふかく浸透した言語文化、言語感覚なのです。英語でコミュニケーションをする人たちが、息をするように、いつもたがいに使っているものであり、それが英語使用者の増大とともに、グローバル社会の不可欠な教養として世界に普及していったものです。

ですから、英語をまなぶことが現代に生きる私たちに欠かせないものなのだとしたら、英語学習のステップの中に、〈速読・要約・創造〉を身につけるための論理的思考法を組み込んで、あわせて学びを進めること、これがとても重要になります。

日英 2 言語での〈速読・要約・創造〉力

本教室では、英語をその論理的思考法とあわせて、基礎から学びなおします。いわば、〈英語＋論理〉という学びの方法をとります。

そうすると、なにより英語をつかっている人たちが、どのように人と意見を交わしたり、議論や文章を組み立てて、**創造**に取り組んでいるか――つまり、そもそも何のために本を読んだり討論をしているのかが、理解できるようになります。そしてその主目的に納得がいけば、それに合わせて、**速読**や**要約**のスキルも、とても簡単に身につけられるようになります。

逆に、これまで日本の学校や塾、予備校が教えてきたように、英語を日本語に訳し、置き換えながら理解していく伝統的な英語学習法を続けていっても、日本語ベースの思考法になじみにくい〈速読・要約・創造〉の能力は身につきにくく、また、英語の語感もコミュニケーションも、理解するのがとても難しくなってしまいます。日本の伝統的な英語学習法は、日本語で書かれた文法や単語の解説をよく読んで、日本語の思考法の中で、日本語を軸や土台にして、英語を考えているものですので、〈速読・要約・創造〉といった日本語の思考法にはなじみにくいスキルをそこから伸ばしていくことは至難のわざとなるのです。

本教室の学びの 3 本柱

本教室では、独自に開発した、非常に簡単な英文の速読・要約法を紹介します。そうして英語の文章を読みとく作業をとおして、論理的思考とはどういうものなのかの感覚をつかみ、まず英語での〈速読・要約・創造〉のスキルを身につけます。そしてその中で、日本語での〈思

考力・読解力・表現力〉（文科省の新学習指導要領の目標）もあわせて向上させていく学習プログラムを組み立て、実施しています。

これは日本の家庭や学校、社会にくらす多くの人びとが、協調性や勤勉な暗記学習などの能力を身につけていることを否定するものではありません。中高生や大学生には日本の教育が得意とする暗記学習をそれぞれの学校で続けてもらいながら、そこにプラスして、現代のグローバル社会で必須になった能力を本教室で加えてもらうことで、長所と個性を伸ばしていこうとする、学びのアップデートであると考えています。

本教室での学びは、3 本柱からなります。

第 1 の柱は、答えのまだない問題にもとりくんでいける、強靭な①論理的思考力をきたえることです。

本教室の学びは、まず母語として身についた日本語を、英語のように分解したり組み合わせたりする〈ことばブロックあそび〉からスタートします。幼児がカードや知育玩具をつかって日本語をおぼえるように、パソコン上のマインドマップをつかって、英語のように論理的にことば・文章を組み立てる思考法を、言語感覚の基盤から習得しなおします。

その上で、英語で発達した論理学・修辞学・読解法のレッスンをとおして、代表的な思考と文章の型（帰納法、演繹法、弁証法、ポイント発見型、対策提案型、分析中心型）をおぼえ、型をつかいながら〈考える力〉をやしないます。型をおぼえることができれば、速読・要約・討論や文章作成が非常に楽に、また楽しくもなります。

そして日本全国の公立高校入試や難関大学の入試問題からえりすぐった英文を教材にして、速読と要約を実践的に練習し、推薦・総合型入試で求められるアカデミックな思考力を身につけます。材料にする文章は欧米の大学の授業でもつかわれるもので、書き手はノーベル賞などの受賞者、権威ある国際機関（国連、ユネスコなど）、芸術から医学まで各界の有力な学者、ベストセラー作家などです。でこれをとおして各分野の学問の基礎や、コロナ対策・環境・金融問題など研究の最先端に触れ、自分のこれからの学びの計画を述べられるようにします（その一例は後掲の「英語問題文の主な出典論著」を参照ください）。

第 2 の柱は、日常生活の一部として②英語の本を多読する習慣を身につけることです。

2020 年以降の新型コロナウイルスによるパンデミックは、世界中で学びの機会をおびやかしました。しかしその対策の必要もあり、もっとも進んだ質の高い英語学習プログラムに、各家庭のパソコンやスマホからでも、オンラインでアクセスできるようになりました。本教室では、英語圏で最古の大学で、各種の大学ランキング（教育力部門も含む）で世界第 1 位に選ばれているオックスフォード大学が提供する多読教材読み放題プラン、Oxford Reading Club（略称 ORC。月額 990 円）をつかった勉強法・読書プランをサポートしています。これにより、

- ✦ 忘れやすい活字上の（日本語中心の）暗記でなく、画像・オーディオ・クイズで単語をおぼえ
- ✦ 〈聞く・読む・書く・しゃべる〉が一体になった、レベル別教材で英語の本を多読でき
- ✦ 英語を（日本語訳せず）英語のまま読んで理解する〈**英語脳**〉を自分の頭にそだてる

といった、**以前なら数年間留学しなければできなかった学習がどこでも可能になりました。**
そして英語の本を英語のまま多読・速読することで、

- ✦ 日本語の思考法にはなじみにくい論理的思考を、より簡単に理解・体得できるようになり

- ✦ 世界の先人たちがどのように自由な発想をふくらませ、開発やブレークスルーを実現してきたか、創造力のお手本を読書で追体験し、自分の中にストックすることができます。

ただし、英書の多読はひとりでは続けにくく、ORC の教材も非英語圏では活用法を工夫する必要があります。その活用法についてくわしくは、別のページ「英書多読のすすめ」を参照ください。

最後に、②の多読で得た知識・情報を、①の論理的思考力をつかって自分の意見に組み立て、多様な考えをもった人たちと話しあいブラッシュアップしていく、③討論の経験を積むことです。本教室では、オンライン上の無料マインドマップ・アプリをつかい、異なる意見・見方を組み合わせて新たなアイデア・解決策を見つけだす、ディスカッション中心の授業を、週１回のペースでつづけていきます。

以上のように、本の読み方・まとめ方の技術を教え、日常的に英語の本を多読する方法をサポートし、その上で、授業では意見を出しあい、学問研究の多彩な理論・分析・解決法を吸収しながら、それぞれの個性を伸ばしていく――これが最新の学習ツールを活用したグローバル標準の学び方であると考え、自信をもって新しい学びに参加することをおすすめしています。

英語問題文の主な出典論者（第Ⅶ部　英文の読解・要約 本編より）

1　論理的思考と外国語　(3) **Steven Pinker**, 'College Makeover: The Matrix Revisited,' *Slate*, Nov 15, 2005

2　国際言語のあゆみ　(1) **David Crystal**, 'What Makes a Global Language?' *English as a Global Language*, 2nd edition, Cambridge University Press, 2003　(3) Robert McCrum et al, 'An English Speaking World,' *The Story of English*, BBC Books, 1986

3　人種問題と社会運動　(1) Nury Vittachi, 'Why Don't Asia's Heroes Look Asian?' *TIME*, Mar 15, 1999

(3)　Bethany Biron, Unilever, 'Johnson & Johnson, and L'Oreal are pulling skin-lightening products from shelves and removing terms like 'whitening',' *Insider*, Jun 30, 2020

4　自然科学　(1) Speech by **Stephen Hawking**, PRINCE OF ASTURIAS AWARD FOR CONCORD 1989　(2) **Richard Feynman**, The Meaning of It All, Basic Books, 1998　(3) R. B. Braithwaite, *Scientific Explanation: A Study of the Function of Theory, Probability and Law in Science*, Cambridge UP, 1953　(4) **Peter Atkins**, 'Why Light Travels in Straight Lines,' *Creation Revisited: The Origin of Space, Time and the Universe*, Penguin Books, 1994

6　社会科学　(2) **Joseph S. Nye Jr**, 'The Future of Power,' *IHJ Bulletin*, 31 (I), 2011

7　心理と宗教　(1) **Joseph Henrich**, 'Rice, Psychology, and Innovation,' *Science*, Vol. 344, 593 (2014) Alison Gopnik, 'Rice, Wheat and the Values They Sow,' *The Wall Street Journal*, May 30, 2014　(2) **Alan de Botton**, *Status Anxiety*, Hamish Hamilton, 2004　(3) **Dalai Lama**, Howard C. Cutler, *The Art of Happiness: A Handbook for Living*, Hodder & Stoughton, 1999

8 環境学　(1)　Boyce Rensberger, 'Farming May Have Begun by Choice, not by Chance,' *The Washington Post*, April 3, 1995　(4)　**Michael B. McElroy**, 'Perspectives on Environmental Change: A Basis for Action,' *Dædalus*, Vol.130, No.4, FALL 2001　(5) Camille Defrenne & **Suzanne Simard**, 'The secret language of trees,' TED-Ed

9　生物の進化と学び　(1) Gary Ferraro, *Cultural Anthropology: An Applied Perspective*, 6th Edition, Thomson Higher Education, 2006　(3) **Jennifer Ackerman**, *The Genius of Birds*, Penguin Press, 2016　(4)　**John Stephen Jones**, 'Is Evolution Over?' *The New York Times*, Sept 22, 1991

10 デザインと工学　(2)　**Henry Petroski**, 'The Simplest Thing,' *American Scientist*, Vol. 95, No. 6, 2007

(4)　David L. Chandler, 'How spider webs achieve their strength,' *MIT News*, Feb 2, 2012

11 芸術の創造と消費　(4) **Donald Sassoon**, 'Mona Lisa: the Best Known Girl in the Whole Wide World,' *History Workshop Journal*, Volume 51, 1, 2001

13 グローバリゼーション　(2)　**Kofi A. Annan**, 'Problems without Passports,' *Foreign Policy*, No.132, 2002

14　世界経済　(2) **Tony Judt**, *Ill Fares the Land*, Penguin Press, 2010　(3)　**Richard Dyer**, *Heavenly Bodies: Film Stars and Society*, Routledge, 1986

15 福祉と世代間ギャップ　(1)　**UNESCO**, *Education for All: Global Monitoring Report 2009*

(2)　Christian Jarrett, 'How our teenage years shape our personalities,' *BBC Future*, 11 June 2018

(4)　**Hartley Dean**, *Social Policy*, Polity Press, 2006

16 哲学　(1)　**Mortimer J. Adler**, *How to Read a Book: The Classic Guide to Intelligent Reading*, Simon and Schuster, 1972　(2)　**André Comte-Sponville**, *The Little Book of Philosophy*, Vintage Books, 2005　(3)　Chet Raymo, 'The Discovery of Ignorance,' *Boston Globe*, May 18, 1998

17　医療と新発見　(2)　Andrew Feenberg, *Alternative Modernity: The Technical Turn in Philosophy and Social Theory*, University of California Press, 1995　(3)　Thomas A. Ban et al, *The History of Psychopharmacology and the CINP*, Volume I, Animula, 1998　(4)　**Eric Kandel**, 'Learning from Memory: Prospects,' *In Search of Memory: The Emergence of a New Science of Mind*, W. W. Norton & Co, 2007

18　新しい世界のために　(1)　Gillian Tett, 'The Green Transition May Depend on Auditors,' *Financial Times*, Nov 5, 2021　(3) **Mark Carney**, *Breaking the Tragedy of the Horizon: Climate*

Change and Financial Stability, Lloyd's, Sept 29, 2015　⑷⑸ **Mark Carney**, *The Reith Lectures 2020: How We Get What We Value*, 3-4, BBC

19　人権と自律性　⑴ **Yuval Noah Harari**, 'Why Vladimir Putin has already lost this war,' *The Guardian*, Feb 28, 2022 ⑵ **Amnesty International**, 'Invasion of Ukraine is an act of aggression and human rights catastrophe,' March 1, 2022 ⑶ **UN DESA**,'Shaping a future where everyone is included,' Dec 2021 ⑷ **UN OHCHR**, *CIVIL SOCIETY SPACE AND THE UNITED NATIONS HUMAN RIGHTS SYSTEM*, 2014

20　パンデミックが教えた 21 世紀の知のテーマ　⑵ **David Quammen**, 'How viruses shape our world', *National Geographic*, Feb 2021 ⑷ **Joshua Lang**, 'Awakening,' *The Atlantic*, Jan-Feb 2013

＊ 太字はノーベル賞など国際的な賞の受賞者や、著名な作家・研究者です。

自然科学については音声付き教材を使用するため、「第Ⅵ部　特別講座：理系・医療・福祉英語」で扱います。